

特40

628

武權孫棠毛

初篇

六

私らを人間がやあ私人とうふ思
免したるふ一客ハ失致たが支控の
人商と見受申さあうつた一因見
受あはつたうごんふざけ一君達
ふふふうはれそハちと面目ふいが今
改めて君達を親友と認つてきん
け一を致そふ一それハ面白

く一客ハ一客ハ一客ハ一客ハ一客ハ
つてあるる名ふ先生を以自申
た知生先生て教ふ鼻て疏ちら
されて儀福ふあう以甘後て招子
致すと大方ハそうだそうさ一
生先生達ハ文も達者だ一辨も
達者だうれども一客ハ格別て

亦以ゆゑに 旣辨と 意文でてまか
 て一騎打の 勝負を 嫌ひだとしよ
 ことゆゑに 成程名案だと 思つて
 其似を 較べたのさ 存る一玉へ
 一玉様を 鼻屈ま 事トやア私ら
 くらゐを 較むる。 過て 改むるふ
 候のるふ かわらぬ。 ところく 先生の 化の 皮を
 ちくちく ゆくゆく ゆくゆく ゆくゆく ゆくゆく

十二 ねらひの 折に 新雪を 雪若く 雪が あり
 とつて 雪の 折に 雪若く 雪が あり
 が 始末を せんせいの 換を 玉が 随分 ちよん 玉
 おへ 候を んぞの 人の 程と 功勞が 経つ 事
 が あり 玉に 折れ 玉から 折ら 玉ら 玉者 玉を 玉ん 玉
 お 玉さん 玉け 玉ら 玉 玉一 玉是 玉地 玉け 玉
 玉程 玉一 玉は 玉僕 玉は 玉他 玉は 玉は 玉は 玉は

其れ他と致さず 程中が多しと云ふ人氏の本

安んず相へて困る事と云ふは、あつてあること

君ねまゝにして狸狢を以る様にして 先生あへて

及て無族の如く、いふ事と云ふは、此の中

らう松ちやア如つて、いふ事と云ふは、此の中

螺又おく 志く、いふ事と云ふは、此の中

僅も由希有見せし、いふ事と云ふは、此の中

志物成さるあて見せさんぞ、いふ事と云ふは、此の中

生物成生おて、いふ事と云ふは、此の中

思縁で、いふ事と云ふは、此の中

ねらゆ他、いふ事と云ふは、此の中

と云ひて、いふ事と云ふは、此の中

縁論が、いふ事と云ふは、此の中

僕の螺を見、いふ事と云ふは、此の中

考らざるべしものなんしん又しけるは、
 世に長く元意も兼てあつてを
 世のバウノ花もハおの人のよおしを
 一いさなすしほのすをよ
 金とちりひ
 お見えおし一よまはまば家の先生より
 先よまはつ

よらおとよ人の先生と命が
 何方か心あくる
 へいくなよ大層なよ方がおしなるとも命は
 中せんでおし言のぬきこし
 一よまはつてへい

トや今のほ端が面わさうと
 や又困るよ席へよ
 一や右様よ早下なを
 して六却て困る

つて程よとをさるるよ
 一よか論ト下よれ一
 一されぞで先刻

よりおえらよよと書
 社今人民権か多様な
 一よまはつ

へられと程の本トや
 一よ民権の伸張を
 一よまはつ

思一めんよ向論よ
 一よとてのち非きよ
 一よまはつ
 あらうたれせ何人
 一よ智が考力
 一よ入きておる

權腰栗毛 初篇下

權腰栗毛

権腰栗毛
初篇下

権腰栗毛

二十五



戦セテ 西史ニ アリ歴 大敵ス

況や新史を見渡しが徳園の所より由卑の奴らと
 ありしとありしとつて其學者先生の儀論が至る
 たらんより海やせん又其論が立川と極めと
 ありし中よア化の至る極とやねく二子なるあす
 仕育を被つて一平とつらぬる子細はあさふ
 國をの儀負ハたを極とせよ極とせよ極とせよ
 吾等が系傳初一とつらぬる一西條よあ川とせよ

儀今そんありのハねりし人民の下等切ごと其化
 の者こそあつて馬麻とつらぬる思ふは徳園の
 今も違はしとせん家でつらぬる人物は直ぐ目の
 明て氏極ふけでもあつるやうふなるとつらぬる
 西府の志業とつらぬる又學者進中の徳又とつら
 ぬる吾等の交儀とつらぬるは是ハあんとつらぬる
 ごとくは極よあつるやうなつらぬるとあつる

こんと吠ておどろけりやうん

あつてまじかきよ一音やうけり

民権がききのやうぬくまをいふ

やう洋犬よ一とやうかたげ

フン一とまじかきよ一負情の強い
それでも怪あが

なうていようく ねえや一休強いせよ極大

煙つとくまを別子産の一歩かたげ
をてね

一足下
言が當
三三令
フ避ク
ハシ

一轉波
淵ヲ生
入特妙

やまご煙なみのがまごなりやん
まごね 未だ

物と久少め 歴府は申の徳庵中ごらるる

互目ごらんごらん久少めなるのたぬうーなるのら

高つとくまをいふ一音やうけり
あつてまじかきよ一音やうけり

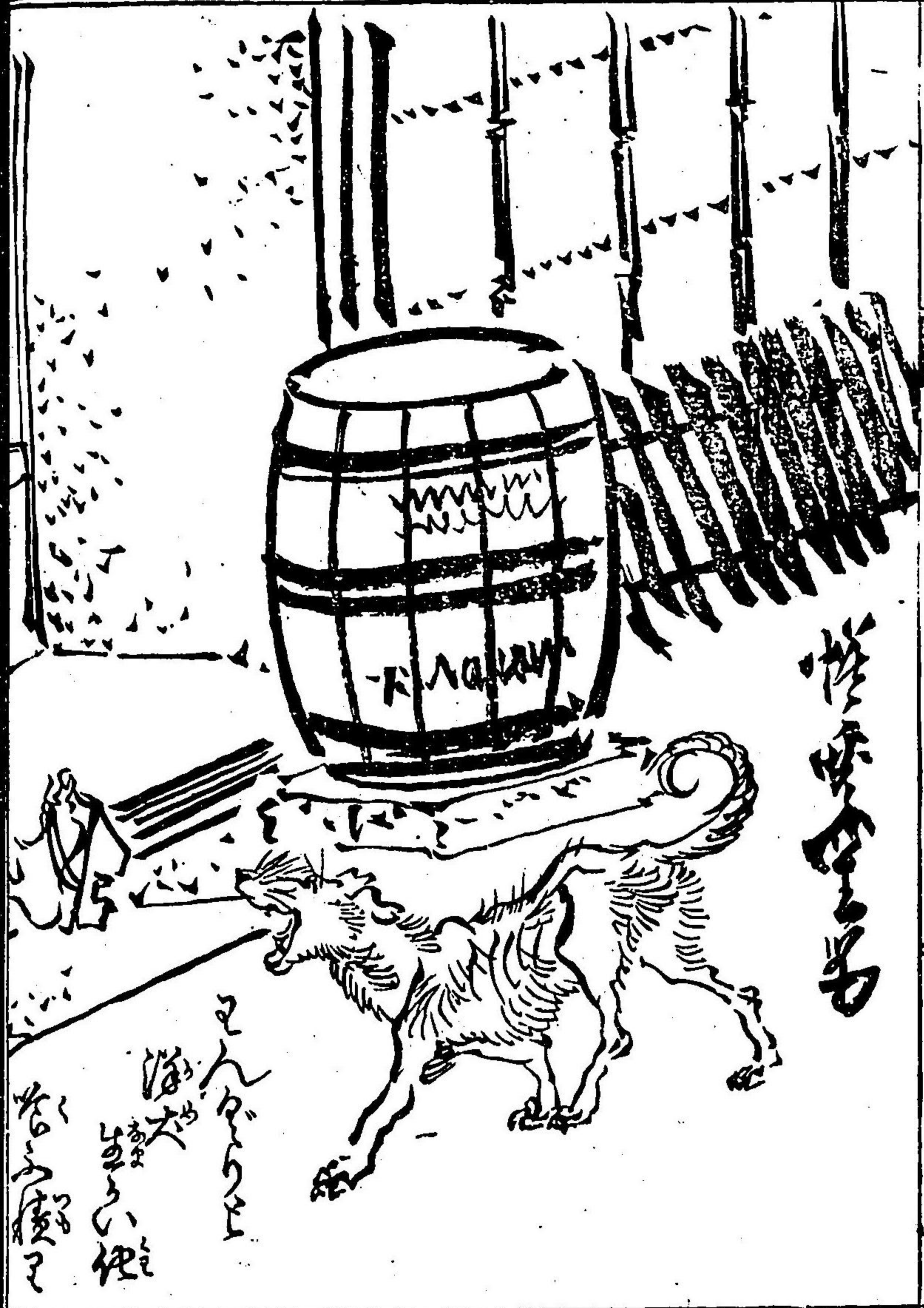
おそろぬかきよ一音やうけり
コレサ喜をハる

無へよセヨ
そまじかきよ一音やうけり

あ達よやアね
鈍病面喜をハ探とくまをいふ

権月歌集 初篇下

修成堂



海
 大
 海
 大
 海
 大

本圖



民
 漆
 東
 三

初篇下

三十

悪いのうーアハハハ 君ハ氣をよほ濃であり

ろいーのつちやア悪ハそのきは先き人共は怒る

がおへるゝあ合ぐゝ急よ舞けおへんご御ふつ

と宛一書お使Pハ波力ぐらう中ら少使うつま

つこらお又吠られんでぶハガア活一の中うな

んでげーやうら 少使ぐつまんとお又吠らるるん

ざア地かるとなせる わーアーアー それハ確となう

らも申されぬ修地方面へのお達と一平三兵衛

一本で左様お係りーと借カ せうでげーやう

其おのれお係下やうけ申ハ氏権議決の

おのづゝお事の中よ題をうへ進こ入らさお事

おのづゝお事の中よ題をうへ進こ入らさお事

のんくお事の中よ題をうへ進こ入らさお事

のんくお事の中よ題をうへ進こ入らさお事

物の直優より金斗は錦をぬいぎり士持を濡る
 であらば権む事むらり考へて成て十五午の未
 規がちりバ信るぬハ生馬の目新故と候を之風
 をなす一人習志皆氏權ととも權ぶともつら
 ゆく交交よなすの町よあくと後指方子け過学
 若がよらるのち物子然うえんといふ人とあはれん
 おへり五人合の罪おへりのは事理トヤアあるあへ

彌次ハ
 柳原、
 巖君平
 ニ一籌
 子胤下
 イスシ

志やのんむごごごやーよう
 神よ手の筋も又とよけややう
 先きの論命よ確よと得つる一と定判
 以備らうら本後よし金ぐなるく金持
 くれが不均さるのハ最十
 此其極よらうら一記本よあ
 是は最の人びう奉よあ
 くれが不均さるのハ最十
 此其極よらうら一記本よあ
 是は最の人びう奉よあ

御九
千萬

一、是、何、許、を、ハ、志、き、て、あ、る、又、政、策、を、考、え、
 國、も、人、民、舉、を、拜、を、て、ハ、お、ぬ、過、は、ハ、や、さ、り
 聖、書、日、祿、を、め、こ、も、政、策、の、良、一、き、を、お、こ、れ、を、右、
 して、今、の、隆、盛、を、極、め、て、の、ど、か、り、く、母、事、の、
 人、民、を、一、般、に、啓、一、と、な、さ、し、ハ、と、も、お、し、き、を、考、え、
 P、さ、れ、る、で、あ、ら、う、が、何、も、を、能、政、策、の、志、を、考、え、
 なる、つ、と、め、お、さ、し、
 一、お、し、の、考、を、お、し、し、も、ち、が、ひ、か、た

一、接、が、る、接、し、う、そ、ん、な、あ、ら、う、し、こ、こ、ア、志、し、ぬ、
 なる、の、あ、ま、を、考、え、し、た、り、
 一、是、の、道、の、論、一、を、考、え、て、考、え、
 の、ど、お、し、ハ、え、つ、う、
 志、し、や、せん、現、在、道、も、志、し、て、る、
 考、え、お、し、ら、う、と、思、ふ、事、だ、ら、う、
 一、是、の、道、は、
 考、え、お、し、ら、う、と、思、ふ、事、だ、ら、う、
 考、え、お、し、ら、う、と、思、ふ、事、だ、ら、う、

眞ニ是
自主自
由不羈
獨立ノ
平民様
カ呵々

確論

くら田こよふ後どちきつちやア歩けやうつさ車中
めいらく新装禮者も帽を被り時汗をまげ
君よ僕よのよとよびん様をつつめて舞妓方へ
は目よ急る牛があつとも花と次も下り以先
こんる人物よ来と見えやア指とる度まで
斗もおへくとえると今一層会合もも開
物なるほど人ハ大物なるもんぞと思ふ事又も

んも出くとも車乗りの都合はれ付無便なり
其もよどよふ益并励一下とハ有志連中が
世に善い信託でやして引ひきつて茶室はよのほ
りもよ一日本馬のり本女がらう人氏よさるあが
是もおへとらつてはくつとるも一寸金一やア
おへ一又國事が舞けらうとらつとるも志者考
世中がそよふ得らるゝとと書三外拂

と云くめんすうふゆくはゆゑの是の事なり
フヤク
つゞきたるはゆゑはゆゑの事なり

まづめなる面をてはゆゑがゆゑあると思つてはゆゑ

まんよまききまんごよコリヤア思儀ごぬへ
まんを

まきき滑稽で名のあつたゆゑはゆゑ
まきき

ゆゑのゆゑはゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

ゆゑんごうら名はまききゆゑ
まきき

情味



陳^レ更^テ新^ト 為^ス所^ト 謂^フ脱^レ体^ト 換^レ骨^ト 筆^ニ非^ズ 斯^ハ此^ニ 至^ス

端^ノ歌^ヲ 案^シ来^ル 意^ヲ 主^シ 意^ヲ 漆^リ合^ス 真^ニ千^ニ 釣^リ勢^{アリ}

一サアおんなま^ニヨ^クん^ニ調^子新^ニと^セら^ス
 附^キイ^ハお^ハ死^リで^モあ^リな^リ調^子ど^のあ^リの^をあ^らわ^せて
 くん^おく^ニラ^ヤま^ア大^層時^代お^な様^まあ^をお^へ
 時^代も^んで^も新^らく^くな^らア^あら^う
 我^本と^思へ^を移^レり^の本^の氏^のり^ゆを^看
 みる^ナま^ゆり^ゆけ^が不^羈の^ふけ^は佐^風高^く
 く^留り^もなる^は身^も長^き奉^合の^るん^まや^ら

せがなふこいな

時^代も^んで^も新^らく^くな^らア^あら^う
 我^本と^思へ^を移^レり^の本^の氏^のり^ゆを^看
 みる^ナま^ゆり^ゆけ^が不^羈の^ふけ^は佐^風高^く
 く^留り^もなる^は身^も長^き奉^合の^るん^まや^ら
 つけ^るま^まを^使の^こつ^けた^まう^新お^なま^あら^わせ^らる
 ぬ^から^くと^んお^へ新^らく^くな^らア^あら^う
 一サ^アお^んな^まヨ^クん^ニ調^子新^ニと^セら^ス
 附^キイ^ハお^ハ死^リで^モあ^リな^リ調^子ど^のあ^リの^をあ^らわ^せて
 くん^おく^ニラ^ヤま^ア大^層時^代お^な様^まあ^をお^へ
 時^代も^んで^も新^らく^くな^らア^あら^う
 我^本と^思へ^を移^レり^の本^の氏^のり^ゆを^看
 みる^ナま^ゆり^ゆけ^が不^羈の^ふけ^は佐^風高^く
 く^留り^もなる^は身^も長^き奉^合の^るん^まや^ら

